

情報共有も進めています

～ 生活者の視点で適応策を考える ～

三重県環境学習情報センター

- 展示ホールと企画展示
- 出前講座の実施
地球温暖化防止、省エネルギー
環境を考える消費者講座
水質チェック、大気調査
自然体験、資源循環 など
- 環境学習指導者養成講座
指導者養成スキルアップ講座
環境講座
こども環境講座

- ・ 地球温暖化と気候変動
- ・ 防止のためにできること
- ・ 将来に向けて備えること

気候変動による
影響への

適応

情報共有も進めています
～ 足をとめて考え

一般

親子



こどもエコフェア(四日市) H25(2013). 7.20-21

一般

親子



氏郷まつり(松阪) H25(2013). 11.3

気候変動による
影響への
適応

変化する気候とこれからの備え

温暖化の進行に伴って、**異常な気象**が頻発します(気候変動)

極端な気象現象の頻発とは...

- 極端に暑い日の頻度が増加
- 強い雨の頻度が増加
- 熱帯低気圧の最大風速が増加 など

写真:平成23年台風15号(気象庁)

熱中症救急搬送者数の推移 (尾鷲市、紀北町の例)
各消防本部の資料より作成

三重県環境生活部地球温暖化対策課

我が国でも既に気候変動の影響が現れており、特に、21世紀に入って以降、影響は急速に現れつつある... (環境省地球温暖化影響・適応委員会による報告書『買い適応』(2008年)より)

● 私たちのくらしにも影響が...

気温の変化 (年平均気温、津地方気象台)
[気候変化レポート2012]
2012年9月東京管区気象台より

100年あたり1.56°C上昇

● 将来の気温を予測すると(年平均気温)

1990年ごろ (1981-2000年) 1990年ごろに比べ およそ1～2°C上昇

2040年ごろ (2031-2050年) 1990年ごろに比べ およそ2～5°C上昇

2090年ごろ (2081-2100年) 1990年ごろに比べ およそ2～5°C上昇

気候の変化による影響のおそれ

- 農林水産業 生育不良、収穫量・時期の変化等
- 人々の健康 熱中症患者の増加、衛生害虫の増加等
- 防災 海面上昇、大雨の発生回数の増加等
- 大切な水 湯水、水温・水質の変化等

● 将来への備えを考えなければなりません

● 生活、事業活動のスタイルを見直すことも必要です

三重県では始めています! 『気候変動に 適応 できる 安全・安心な地域の実現へ』

適応に関する基礎的な調査(平成24年度)

● 既に現れている影響はどうか

● 将来予想される影響はどうか

● 情報共有と共通理解の推進

- ・ 庁内で情報を交換・共有
- ・ 県民・事業者等と情報を共有

気候変動適応庁内全講 H24.7.26

三重県気候変動適応セミナー 2013 H25.3.8

総合的な適応策の推進 ~ 適応策の組み込み

既存の適応策 (旧計画)

既存の適応策 (新計画)

強化した適応策 (継続・改善・強化)

新たな適応策 (新計画)

新たな適応策 (新計画)

● 適応に関する基本方針の検討・作成

● 適応に向けた共通理解の促進

適応策の推進

25

県民・事業者・関連部局との連携による推進

関係省庁における気候変動影響への適応の検討

- 観測・予測・影響評価の統合レポート 日本の気候変動とその影響(2013年)[文部科学省・気象庁・環境省]
- 地球温暖化予測情報(2013年)[気象庁]
- 気候変動への賢い適応(2008年)[環境省]
- 気候変動適応の方向性(2010年)[環境省]
- 水災害分野における地球温暖化に伴う気候変化への適応策のあり方について(答申)(2008年)[国土交通省]
- 洪水に関する気候変化の適応策検討ガイドライン(2010年)[国土交通省]
- 大規模水害対策に関する専門調査会報告書(2010年)[中央防災会議]
- 海岸保全施設の更新等に合わせた地球温暖化適応マニュアル(案)(2011年)[国土交通省]
- 提言 気候変動下における水・土砂災害適応策の深化に向けて(2011年)[日本学術会議]
- 洪水に関する気候変化の適応策検討ガイドライン(2010年)[国土交通省]
- 気候変動適応策に関する研究(中間報告)(2013年)[国土交通省]

平成25年度の異常気象など

月日	場所	内容	死亡者数	行方不明者数
3	名古屋	月平均気温・最高値更新 (10.5°C)	—	—
7・26～	山口、島根		2 (山口)	2 (山口、島根)
7	尾鷲	月降水量・最少値 更新: 40.99	—	—
8・9～	岩手、 秋田(1時間降雨109mm)		8	—
9・15～	京都、滋賀、福井 初の「特別警報」発令	台風18号 (伊良湖: 966.1h/Pa)	6 (全国)	1 (全国)
10・16	東京都大島町、 時間100mm程度の雨が 数時間継続、 連続雨量800mm	台風26号 (伊良湖: 981.2hPa)	40 (全国) <36> <大島>	3 <3>
10	名古屋	月平均気温・最高値更新 (10.2°C)	—	—

気候変動適応策に関する研究(中間報告)から

(出典：国土交通省 国土技術政策総合研究所 気候変動適応研究本部)

1. 防災対策の転換

- ・ 東日本大震災では大規模な津波が発生
- ・ 世界最大規模の防波堤が破壊され、防災施設の機能の限界を改めて認識
- ・ これまでは、施設整備を中心とした対策や危機管理体制の整備が進められた
- ・ 維持管理費の増大や財政事情の逼迫
- ・ 危機管理対策は「人命の保護」には効果的
- ・ 地域・都市さらには国土全体の構造の変化も含めた多重防御が重要

気候変動適応策に関する研究(中間報告)から

(出典：国土交通省 国土技術政策総合研究所 気候変動適応研究本部)

2. 気候変動に対する適応策

- ・ 個人責任原則の厳格化
- ・ リスク情報の公表
- ・ 災害リスクをベースとした土地利用等制度の強化・包括化
- ・ 多重防御地域の防災力評価手法の開発
- ・ 人口減少社会における将来のコミュニティのあり方
- ・ 防災と環境保全の一体化
- ・ グランドデザインの実効性確保
- ・ 重要地域を守るための地域間のリスク移転

生活、事業活動の今後は…

私たちが生きていくうえで欠かせないもの

- ・ 食料、衣料、医療、住まい
- ・ 「富み」と「貧困」

必要なものは将来においても保障されるか？

2012年1月、国連地球の持続可能性に関するハイレベル・パネル(GSP)報告

「Resilient People, Resilient Planet : A Future Worth Choosing」

- ・ 2040年には世界の人口が70億人からほぼ90億人へ増加。
- ・ 世界に約20億人の中流階級の消費者が20年後にはおよそ50億人に。
- ・ 2030年までに、世界は少なくとも50%多くの食料、45%多くのエネルギー、30%多くの水が必要。

Adaptation

三重県気候変動適応セミナー 2014

2014年 **3月14日** (金)
13:30～16:30 (開場:13:00)
プラトンホテル四日市
3F ダイアモンドホール

三重県では、地球温暖化対策として、温暖化防止の取組を進めると同時に、気候変動の影響による自然災害の増加、食料調達や水資源の減少等に備える「適応」の取組を進める必要があると考えています。

今後の気候変動による影響は、例えば、洪水や強い台風などの激しい気象現象とそれらによる被害が、さらに深刻化・広域化する恐れがあります。多くの研究者の必

要として、社会の安全・安心と持続可能な発展に向けて、気候変動による影響が予測される将来に備えていくため、多くの方々に参加され、ともに考え及び連携を進めていくことが必要と期待されています。

Program

第1部 講演会

- 気候変動がひきおこすさまざまな社会の問題

三村哲男 茨城大学教授 地球気候変動科学研究所環境学部長

- 気候変動に備えた治水のあり方が問われている(飯田)

深見和彦 国土技術政策総合研究所 流域管理研究官
気候変動適応研究本部 副部長

- 変わってきた天気予報と、お伝えしたいこと

多森成子 三重テレビワイドニュース お天気キャスター

- 紀伊半島大水害の教訓と、これからの行動

中村直樹 紀伊半島 総務課 防災対策担当 課長補佐

第2部 トークセッション

- 講演者と参加者とのトークセッション

コーディネーター：三村哲男

